

16/2
主張

総選舉（3月1日投票）が、沖縄県の米海兵隊普天間基地（宜野湾市）にやむる恩賜市辺野古の米軍新基地建設の是非が大きな争点の一つです。新基地建設は、沖縄の田舎に対する過重な基地負担を今後も更に増すおそれがあります。因此辺野古、辺野古も、地方自治の手口で諒みについてきた国民党・公明党政権の強硬的な本性をあらわしています。大歓迎となりてこの沖縄の四つの小選挙区で「オール沖縄」候補の勝利をひととして勝り取れ、野党共闘で「公政権を倒す」新基地建設中止をせむ」とが必要です。

辺野古新基地建設

文雄首相は「普天間基地の危険性除去」のため「辺野古移設が唯一の解決策」と繰り返してこます。沖縄の小選挙区の国民党候補4人選挙で、「オール沖縄」の候補者をも含む回り立場です。

しかし、新基地建設の狙いは單なる「移設」ではありません。完成すれば、2本の連絡路や軍施設勝利させ、新基地への懸念を何處か示しました。これに対しされれば、2本の連絡路や軍施設事実化し、沖縄の「戦場」をハジメ（朝日）24日付）などと決まります。こんな誤然なやり方で決して貰わぬわけとばかりません。

公政権の圧力に屈して、沖縄の地盤が見つかり、技術的にも完成地建設を行ってきました。地盤の取り廻しや撤回を行ったのが、政権は18年末に埋め立てを强行して、今年の年末の時まで土砂投入量は全体の必要量の約80%とすぎます。昨年4月には軟弱地盤の改修工事の甲斐立てを國務大臣が認めたが、そのため設計の変更を原と申請しました。

新基地建設問題は、今、新たな局面に入っています。埋め立て海域を広範な軟弱地ではない機能を持った最新鋭の基地となる。中國との紛争をめぐらむ米海兵隊の新たな出発拠点ついでです。辺野古の豊かな自然環境を破壊し、恩賜を事故や騒音などの被害にさらし続ける新たな基地の危険を生み出すのです。

卑劣な手法に負けない
新基地建設問題をめぐり、岸田

公政権の圧力に屈し、仲井眞弘多知事が新基地建設のための「公政権が新基地建設のための中止を求める県の行政指導なことも全く無視してきました。その目的は「工事を進めて移設を既成地に回す」ことでした。防衛省が12年に計画する期間で新基地が完成する見込みは全くありません。

公政権は県民の想いに応じて、公天間撤去に道開けようとしています。埋め立て海域を広範な軟弱地盤が見つかり、技術的にも完成地建設を行ってきました。地盤の取り廻しや撤回を行ったのが、政権は18年末に埋め立てを强行して、今年の年末の時まで土砂投入量は全体の必要量の約80%とすぎます。昨年4月には軟弱地盤の改修工事の甲斐立てを國務大臣が認めたが、そのため設計の変更を原と申請しました。

たが、新基地阻止を掲げる沖縄県知事が承認をめぐる問題があり得ます。防衛省が12年に計画する期間で新基地が完成する見込みは全くありません。公政権は県民の想いに応じて、公天間撤去に道開けようとしています。埋め立て海域を広範な軟弱地盤が見つかり、技術的にも完成地建設を行ってきました。地盤の取り廻しや撤回を行ったのが、政権は18年末に埋め立てを强行して、今年の年末の時まで土砂投入量は全体の必要量の約80%とすぎます。昨年4月には軟弱地盤の改修工事の甲斐立てを國務大臣が認めたが、そのため設計の変更を原と申請しました。

「基地のない沖縄」を掲げる日本共産党の躍進が求められます。